

# | 教学入門（7）難を乗り越える信心 |

人生には必ず苦難がある。広宣流布の戦いには必ず困難がある。

一生涯にわたって信心を貫くことが大事である。

正法を持った人はなぜ難にあうのか？

→ 変革を起こさせまいとする働きが、自分自身の生命自体や、周囲の人間関係の中に生じる。

## ① 三障四魔（成仏を目指す仏道修行の途上で起こる障害）

ぎょうげ つと さんしょうしまふんぜん きそ おこ ないししたが べか おそ べか  
 行解既に勤めぬれば三障四魔紛然として競い起る乃至随う可らず畏る可らず

■三障 信心修行の実践を途上で妨げる働き

■四魔 信心修行者の生命の内側から生命の輝きを奪う働き

三障	煩惱障	自身の煩惱による信心の妨げ
	業(ごう)障	悪業による信心の妨げ 妻子等の身近な存在によって起こる
	報障	過去世の悪業の報いとして現世に受けた悪い境遇による信心の妨げ 国主・父母等自分が従わなければならない存在によって起こる
四魔	陰(おん)魔	五陰（心身の働き）の不調和による信心破壊
	煩惱魔	貪り、瞋り、癡などの煩惱による信心破壊
	死魔	信仰者の生命を断つことによる信心破壊
	天子魔	生命の根本的な迷いによる信心破壊 第六天の魔王とも言う。

ほんぶ  
 凡夫の仏になる又かくのごとし、必ず三障四魔と申す障いできたれば  
 けんじや くしや  
 賢者はよろこび愚者は退くこれなり

→ 煩惱や夫や子供自体が障魔ではなく、紛動される自分自身の弱い生命に原因がある。

→ 何事にも紛動されない強い信心が、三障四魔を打ち破る。

→ 三障四魔が出現した時こそ、成仏への大きな前進のときである。

## ② 三類の強敵（末法で法華経を弘通する者を迫害する3種類の敵）

俗衆(ぞくしゅう)増上慢	法華経の行者を迫害する、仏法に無知な衆生
道門(どうもん)増上慢	法華経の行者を迫害する僧侶
僭聖(せんしょう)増上慢	法華経の行者を迫害する、普段は人々から聖者のように仰がれている高僧 → 権力者を動かして法華経の行者を迫害する。

悪鬼入其身

三類の強敵の出現は、真実の法華経の行者であることの証明である。